
改訂版精霊と呪いと左手

一喜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

改訂版精霊と呪いと左手

【Nコード】

N1653Z

【作者名】

一喜

【あらすじ】

高校受験に見事失敗した黒木竜弥は、一つの高校へと入学させられることとなる。しかし、その高校は普通とは違く、なんとトレジャーハンターを教育する高校だった!?

プロローグ（前書き）

初心者です。

どうかよろしくお願いします。

忙しいので更新は遅れるかもしれませんができるだけなら週一で更新していきたいと思います

プロローグ

―何かが変わえられると思った―

―自分の手で変えることができる―

そう、確かに黒木竜弥は思ったのだ。

ゴォツと凄まじい風が竜弥の前髪を揺らす。はるか前方には直径200メートルほどの竜巻ができて始めていた。しかもただの竜巻ではない。

「黒の竜巻は呪いの怨念の渦なり」

透き通るような声が竜弥の鼓膜を揺らす。それは優しい精霊の声。この世界に住む、風の精霊の声。

黒い竜巻がこちらに近づいてくる。そのあとには瓦礫しか残っていない。もう、この神殿は長くは持たない。

凄まじい風圧が周りの壁や柱に亀裂を刻んでいく。辺りが崩れ去る中、竜弥は動こうとはしなかった。

代わりに、竜弥は拳を握った左手を黒い竜巻の方に向ける。その拳には小さな黒い古刀が握られていた。

「契約を、自由、を汝の元に」

竜弥は小さな呪文を唱えた。

すると、目の前を渦巻いていた竜巻が竜弥の握る古刀に吸い込まれ始めた。唸り声のような轟音と共に、竜巻は古刀に吸い込まれていき、形を螺旋状に変える。そして、竜弥の左手に螺旋が刻まれていく。

「契約を―、自由を―、汝の元に」

「契約を―、代償は―、『持ち人』の―」

「これは―である。決して、―は、―」

かすれた声がどこからともなく、聞こえてくる。それに伴い竜弥の手に刻まれる螺旋が、より深く刻まれる。

鮮血が舞う、もう、竜弥の左手は肩の部分まで螺旋が刻まれていた。

「契約を、代償を払い、汝に自由と肉体を」

「契約の代償は、『持ち人』の命。」

「これは呪いである。決して、逃げることは、許されない」

声が、今度ははっきりと聞こえる。

そう、これは代償。

これは呪い。

「上等だ」

竜弥は笑う。

螺旋を刻まれながら。

呪われながら。

.....

五月、春の桜が散り、もうすぐ来る梅雨のじめじめ感にどう対処しようかと人々が真剣に悩み始めるその時期に、黒木竜弥はそこにいた。

今、彼がいるのはとある学校の通学路。レンガ一つ一つを丁寧に並べ、細かく舗装された道を囲むように大きな銅像が並べてある。なんとまあ、威圧的な通学路だ。

（全く、我ながらすごい学校に入ってしまったもんだな）

そんな威圧的な通学路を歩きながら、竜弥は溜息をつく。別にこの通学路がどうこうの話ではない。問題はその奥にあるものだ。

馬鹿でかい、西洋の城。それが竜弥に溜息をつかせているものだった。それは通学路と同じく完璧なまでのレンガ造りで幻想的な雰囲気を感じに与えている。

それだけならまだいい、ただ、残念なのはそれが竜弥の通う、日本の国立高等学校ということだけだ。

「はー、まさかここに俺が補欠合格したなんて誰も思えないよな」

受け入れられない現実に竜弥はさらに溜息をつく。そういえば溜息をつくとき幸せが逃げるといいうがそれなら自分はどうなのだろうかと思いい、それを考えただけで溜息をつくだけだと思い竜弥は思考を中断させる。

日本国立高等学校、「トレジャー・メイ・ライハル、ハンター」教育機関。略して「トレジャー」

それが、竜弥の通うことになった学校の名。

日本唯一の『トレジャーハンター』の専門学校。

そんな馬鹿な、と竜弥は思う。

（いや、だってトレジャーハンターですよ！あのよく、RPGのゲームで出てくるその場稼ぎで生活している輩ですよ！　って、そもそも今の世界に宝なんてあるのかよ！）

と、竜弥は心の中で思いつきり突っ込んでみるが、現実が変わりはない。たとえ目の前の出来事がどんなに常識からかけ離れていてもそれは結局は現実なのだ。

仕方なく、竜弥は溜息をつき、常識離れた通学路を歩き出す。

五月の生暖かい風が彼の髪を揺らしていた。

一つの物語が始まろうとしていた

教育長（前書き）

短いです＜＜もう少し長く描けるようにしたいと思います
ごめんなさい

教育長

「初めまして、私がこの学校の『教育長』の真枝堂水奈と申します。黒木竜弥さんですね？お待ちしておりました」

竜弥が城のような学校に着いた、その時、開口1番に一人の女性から声かけられた。

黒く、輝きを帯びている、黒髪、胸、腰、に掛けて、女性らしい曲線を描き、ほそく、長い脚がすらっと伸びている。

長い黒髪を後ろでまとめ、また、その美しい黒髪と同じ色の瞳をもったその女性はどう考えても、15、6で竜弥と同じ年にしか見えなかった。

例えるなら、美少女。美女よりも、顔が幼く、なんとなく全体的に足りてないが、それでいて、大人びている美少女といったところだ。「あ、こちらの学生さんですか？いや、初めまして俺は黒木竜弥です。」

と竜弥は軽く、会釈したのだが目の前の少女は露骨に顔をしかめて「学生？私は今、申した通り、『教育長』の真枝堂水奈といって、この学校の生徒ではありません」
そう、きっぱりと宣言した。

.....

「教育・・・長？・・・なんすか、それ？」

「ああ、貴女は編入生ですね？・・・落ちこぼれの。」

なら、知るわけありませんか。この学校には、日本唯一の取り組みとして、教育者、つまりは生活のリズムを整える調整をする役職があり、私はその長を務めているものです」

すらすら、なんて効果音が聞こえてきそうなほど、テキパキ答える

水奈に竜弥は圧倒されながら、さらっと突っ込んでみる。

「あの？今落ちこぼれて言いました？それとなんで、生活のリズムを整える必要があるんです？」

あくまで、軽く、深く聞くことなく、ほかの質問と組み合わせながら竜弥は突っ込む。

そうすれば、相手も、さりげなく答えることができるし、何よりずうずうしくない。

これは、竜弥が長年の知恵で編み出した技だ。

それに、水奈は少しだけ間をおいて。

「高校受験に失敗した輩を落ちこぼれと言って、何がわるいんです？」

さらっと、竜弥にとって最大級の爆弾を投げつけた。

「………そうですね」

もちろん効果は抜群である。竜弥はふらふらと地面に倒れ込む

「どうしました？体調でもわるいのですか？」

声色は変えずに顔だけを曇らせた水奈が倒れこんだ竜弥の顔を覗き込む。

なんとなくだが彼女の態度からして純粹に言ったぽい、ので余計にたちがわるい。

「あのさ……」

「はい？」

「俺にとってはそれは、トラウマなわけで、できたら、そのこと、触れる、のはやめてほしいなんて」

はは、と乾いた笑みを浮かべながら竜弥は水奈にお願いする。当然、そこは水奈も分かってくれるだろうとふんでの頼みだったが……

「いえ、だめです」

短く、きっぱりと水奈はそう答えた。

「え？な、なんで」

以外すぎる、答えに竜弥は聞き返す。その時、声が裏返ってしまったのは内緒である。

「私は『教育長』です。さっきの質問の答えですが、貴方たち、この学校の生徒は行く末は日本の重役、つまりは顔となる人物になるわけです。もちろん、すべての人がなれるとは限りませんが、万が一なった時にスキャンダルや、生活、性格方面に問題があつては困るのです。ですから、私たち教育者にとって、その個人の問題など気にせず、うまく、完璧な方面へと導く義務があるのです」

「えっと？つまり？」

まるで、説明書を読んで聞かされている感覚で、竜弥は簡潔にたずねる。

「あなたのトラウマなんて知りません！」

（言い切った！）

強く、かなり強く言い切った水奈に対して、竜弥は心の中で驚愕する。この場合、人権はどうなるんだろうと真剣に考えつつはあ、と溜息をつく。

元々は、竜弥が受験を失敗して、こんな学校に入ってしまったのが原因なのだ、いまさら、それを攻めても仕方がない。

郷に入っては郷に従え。

そのことわざ通り、ここでは従うしかないのだ。

これも、長年の経験により編み出した技である。

…あきらめろ…

自分にそう言い聞かせることによってすべては受け入れられる。それを、若干15にして竜弥は身に着けていた。

「夢がない・・・よく言う現実を見ているタイプですか・・・」

その様子を眺めながら水奈は呟くがその呟きは竜弥には聞こえていなかった。

教育長（後書き）

意見、感想などありましたらどんなものでも拝見させていただくので、ご指導などありましたらよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1653z/>

改訂版精霊と呪いと左手

2011年12月13日01時03分発行